

## 【佐賀県日中友好協会が貴州省を訪問】

佐賀県日中友好協会（篠塚周城会長）は9月6日から5泊6日の日程で、貴州省を訪問しました。貴州省政府が主催する「貴州省国際姉妹都市交流協力会議」に出席するため17人で訪中団を編成。団長の篠塚会長は「今後は青少年の交流により力を入れたい」と意向を伝えました。

佐賀県と貴州省との交流の歴史は1998年以来、26年の長きにわたります。コロナ禍明けの国際交流の再開を期して、貴州省が友好関係を持つ世界各国の都市に呼びかけての会議が実現。佐賀県日中友好協会の篠塚会長も佐賀県とともに招待を受けました。

一行は9月6日に福岡空港を出発し、上海経由で省都・貴陽市へ。8日には、篠塚会長のほかフランスやベラルーシ、ニュージーランド、モザンビーク、タイなど14カ国の都市幹部や民間代表が、貴州省の共産党幹部や省政府幹部と面会しました。



省ナンバーワンの徐麟・党委書記は貴州省の発展ぶりを説明した後、「友好交流で新たなレベルまで関係を推進したい」と述べました。また、篠塚会長は中国メディアの取材を受け「貴州省と佐賀の間で青少年交流を活発化させたい。卓球大会や茶道体験などスポーツ・文化を通じて若者が相互に学び、協力できるようになれば」と抱負を語りました。



9日の「交流協力会議」には訪中団の17人全員が出席し、各国のスピーチを聞いたほか、夜は貴陽市のホテルでの公式パーティーに参加し、日中友好の思いを強くしたところです。

公式行事のほかは、「貴州省国際酒博覧会」にも参加。そういえば、ここは有名なマオタイ酒のふるさとでした。日本酒のブースには佐賀と和歌山の酒が展示してあり、団員も試飲してくつろいだ時間を体験しました。

## 【佐賀県日中友好協会が貴州省を訪問】



17人の団員は日中会員のほか一般の人も多く、ほとんどが貴州省は初めての訪問でした。観光では少数民族・苗（ミャオ）族の村を訪れたほか、アジア最大の滝「黄果樹瀑布」を見て、全員が中国の奥深い習俗・文化と雄大な自然に感動したところです。



佐賀県日中友好協会が公式に訪中団を派遣するのは2019年に遼寧省を訪れて以来で、団員は「素晴らしい旅だった」「中国により魅力を感じるようになった」などと感激していました。



最後になりましたが、受け入れていただいた貴州省政府と省人民対外協会の配慮に感謝いたします。（副理事長 横尾章）